



万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部ニュース

News of Japan Chapter of International Society of Surgery

発行：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部
〒160-8582 東京都新宿区信濃町35
慶應義塾大学医学部外科学教室
TEL:03-5363-3802 FAX:03-3355-4707
発行者：北川雄光
編集責任：万国外科学会 (ISS/SIC) 日本支部事務局長
和田則仁(慶應義塾大学医学部外科学教室)
印刷：株式会社 dig TEL:03-3551-3060
年2回発行 1995年4月創刊

ISW2013 ヘルシンキ大会を終えて

Honorary President of LOC, ISW2011
Past President, ISS/SIC
慶應義塾大学名誉教授
国際医療福祉大学学長

北島政樹



8月25日より北欧の“White City of the North”といわれているヘルシンキでISS/SICが開催され、私にとっては猛暑の日本から脱出する良い機会でもあった。ヘルシンキまでは9時間足らずのフライトであり、しかもJAL787でバッテリー故障も起こらず快適な旅でもあった。機中、ISS/SIC2011のLOC会長の渡邊昌彦教授(北里大)のグループも同乗しており、なごやかな雰囲気でもあった。

今回はGöran Akerström会長、Ari Leppäniemi LOC会長の連携も良く、さらにフィンランド外科学会のSauli Niinistö会長も強力な支援をしており、すばらしい学会が期待された。私も今回はCongress Vice Presidentの立場で参加した。

8月25日の前日に到着し、その午後には会長主催のクルージングツアーに招待を受け、Archipelagos(多島海)の風景を満喫する事ができた。

翌日、日曜日の夕刻より恒例の開会式が開催され、私にとってはまず思い出のスタートとなった。2007年にカナダのモントリオールでISS/SICを会長として主催し、また2004年には嶋田 紘会長(横浜市大)による第18回ISDSで名誉会長を務めさらに2011年、横浜でのISDS会長およびISS名誉会長などが評価されISS/SICの名誉会員に推戴された。今回の名誉会員推戴式に於ては旧知の友人が全てであり、比企能樹名誉会員(北里大)と親しいDr. Dorothea Liebermann-Meffert (Germany)、宮野名誉教授(順天堂大)と親交のあるDr. Jay Grosfeld (USA) および相川名誉教授(慶應義塾大)の友人でもあるDr. Basil Pruitt Jr. (USA) でありリラックスムードで会長から名誉会員楯を受ける事が出来た。さらにISS/SIC Prize 2013を受け

たCarlos Pellegrini教授(USA)は、ACS及びASAを介して永い親交があり、お互い再会を楽しんだ。来年の京都に於ける日本外科学会総会にはACSのPresidentとして招待を受けることになっている。

さて今回のISS/SICはさらに大きな感動があった。私が永年、若手消化器外科医育成を夢とし、努力してきた事が現実となったことである。ISDSのMarco G Patti会長、Tonia Fadock副会長、若林 剛理事(岩手医大)など理事会の努力によりKitajima Prizeを創設していただいた。特にISDSの前身であるCICD(Collegium Internationale Chirurgiae Digestivae)を1982年、長尾房大会長(東京慈恵医科大学)が京王プラザホテルで開催された第7回会議で研究発表して以来、思い出深い学会の一つであった。CICDの更なる発展を望み、2006年の第19回会議以降、万国外科学会と同時開催をするようになり、現在はIAES、IATSIC、IASMEN、BSIと共にIntegrated Societyとして発展してきている。

会期中の8月28日にGrassi and Kitajima Prizeのセッションが行われ、私とDr. PattiとDr. Fadockで7題の中から選定した。最初のKitajima Prizeは3人の審議の結果、シカゴ大学Dr. M. Alliaxが受賞した。今後は日本からの若手消化器外科医が受賞する事を大いに期待したい。



Kitajima Prize 受賞者 Dr. Marco Ettore Alliax と北島政樹先生



ISW2013 Helsinki, Opening Ceremony でのISS/SIC名誉会員受賞式

左より Professor Jean-Claude Givel (Secretary General ISS/SIC)、Professor Göran Akerström (President ISS/SIC and Congress President)、名誉会員受賞のProfessor Basil A. Pruitt Jr.、北島政樹先生、Professor Jay L. Grosfeld、Professor Dorothea Liebermann-Meffert



ISW Helsinki でのISDS理事会懇親会

前列左より北島政樹先生、ISDS会長 Professor Marco Patti、World Journal of Surgery 編集長 Professor John Hunter、後列中央 次期ISDS会長 Professor Tonia Fadock

グローバル化と国際学会 ～ ISW2013 に参加して～

熊本大学大学院
消化器外科 教授

馬場秀夫



2000年代に入りグローバルな人材を育成する必要性が声高に語られている。政府は世界で活躍するグローバル人材の育成を成長戦略の一つと位置付けており、国際化を進めるよう大学に促す政策を次々と打ち出している。グローバル人材の定義に関してはいくつかの議論があるが、三井住友銀行の北山氏は「異文化を理解し、英語で自己表現ができ、世界を舞台にリーダーシップを発揮できる人材」と表現している。

ハーバード大学教授のロナルド・ハイフェッツは「リーダーはバルコニーに駆け上がれ」という言葉を『最前線のリーダーシップ』という本の中で述べているが、ダンスホールで踊っているときに見える光景と、バルコニーに上がって、上から見える光景は違うように、物事を俯瞰する力が必要であることを説いたものと思う。鳥かごの中の鳥が見ている光景と、鳥かごから放たれ、大空を飛び回る鳥から見える地上の光景が異なるように、国際社会の出来事を理解するためには、世界に出て、広い視野で物事を考え判断する能力を身に付ける必要がある。

医学に関する最新情報の多くは、基礎研究であれ、臨床研究の成果であれ、英語で発信される。したがって、最新の医学情報を得るためには、国際学会に参加したり、英語の一流誌の論文を読む必要がある。国際学会では英語での発表が必要なため、普段の国内学会での発表のように、自分の主張を十分伝える

ことができなかつたり、あるいは質問に適切に答えられずにもどかしい思いをすることもあつた。しかし、一方で、国際学会に参加することで、海外の一流の研究者と知り合いになり、意見交換する中で様々な刺激を受け、物の見方・考え方が変わることもある。そのような意味で、医師になってできるだけ早い時期に国際学会に参加して発表する経験を積むことが重要であると日頃より考えている。

万国外科学会は、外科系の国際学会の中では、さまざまな領域の発表があるために、参加することで一度に多くの情報を得ることができ、貴重な経験を積むことができる。今回の ISW2013 は北欧フィンランドの首都、ヘルシンキで開催された。8月のヘルシンキは緑と青い空が美しく、気温は20度前後で快適な気候であった。公用語はフィンランド語であるが、空港スタッフ、ホテルやレストランのスタッフなどほとんどのヘルシンキの若者は流暢に英語を話す。フィンランドの教育には日本が見習うべきところがあるように思う。会場は市街地の北に位置するモダンなビルディングの Helsinki Exhibition & Convention Center であった。消化管、肝胆膵、胸部外科、内分泌、Minimally invasive surgery や、国際学会らしく外傷、特に Military surgery まで幅広い演題が発表された。各会場で多くの日本人参加者が見られ、意識の高さを感じられた。一方、積極的に discussion に参加できている日本人はまだ少なく、国際社会で通用する英語力の大切さを痛感した。

私は ISS/SIC Lloid M. Nyhus Prize Session で消化器癌の circulating tumor cells に関する口演発表を行った。また ISDS Main Session, Inflammatory bowel disease で座長を務めさせていただいた。いずれも各国の specialist から積極的な質問が寄せられ議論が白熱したセッションとなった。このような機会を与えていただいた ISW2013 の President, Dr. Göran Åkerström および Dr. Ari Leppäniemi、また万国外科学会日本支部支部長 北川 雄光 先生にこの場を借りて心より感謝申し上げます。

ISW2013 に参加して

横浜市立大学
消化器・腫瘍外科学 教授

遠藤 格



平成25年8月25日から8月29日までフィンランド、ヘルシンキで開催された ISW2013 に参加しました。学会会場はヘルシンキ駅から車で一駅5分くらいに位置する便利な場所でした。公共交通機関の free ride pass も学会から支給され非常に快適でした。また天候も毎日快晴で湿度も低く、うだるような暑さの日本に帰るのが嫌になるほどでした。

今回の主要な目的は Participating society の一つである ISDS (International Society of Digestive Surgery) に出席することでしたが、他の Participating Society である IASMEN, BSI などにも興味深い演題やレクチャーが多く、大変聞き応えのあるプログラムでした。特に、ISDS 会長であるシカゴ大学の Marco Patti 教授の「次世代の academic surgeon にとって重要なことは

work-life balance である」という趣旨の講演は、今後の外科医の生き方を考えるうえでとても興味深い意見だと思いました。

会長の報告によれば、今回の演題登録状況は地元フィンランドが第一位で700題ほど、日本からは250題を越える応募があり第二位であったとのことでした。ISDS は北島政樹先生、山川達郎先生、現日本支部長かつ ISS の Councilor である北川雄光先生、ISW2011 Yokohama を成功裏に終了された渡邊昌彦先生ほか多くの日本人外科医が貢献して現在に至っています。今回、その多大な貢献度が認められ北島政樹先生に名誉会員の称号が贈られたことは本邦にとっても非常に喜ばしいことであったと思います。

多くの演題登録状況を反映してか、今回は主要なセッションにおける日本人の発表や司会者が多いことも印象的でした。世界に対して日本人のプレゼンスを示すことができる学会の一つであると感じました。

本学会は多くの Travel grant を設けており、世界各国から選ばれた若い外科医が受賞していました。当医局からも Yokohama Award を2名の医局員が受賞させていただきました。彼らにとってこの受賞は大きな励みになることと思います。この場をお借りして関係各位に心より感謝申し上げます。



ISW2013 会場 Helsinki Exhibition & Convention Center 前にて

ヤンセンファーマ株式会社
URL: <http://www.janssen.co.jp>

Janssen

私たちが目指すもの： それは、違いをもたらすこと

私たちの大きな使命。それは、今なおお答えできず、患者さんたちが切望する課題に取り組み、これを解決することです。

ヤンセンがとりわけ注力しているのは、5つの大きな治療領域—神経科学、感染症、腫瘍(がん)、免疫疾患および疼痛—です。さらに、当社の製品ポートフォリオは、その他の重要な領域についても扱っています。

私たちは「人を助ける人」でありたい。

—統合された知識と資源を使いこなし、卓越した科学の力と可能性に投資して、世界中の人々の寿命とQOLを向上させるために全社一体となって取り組んでいます。

ヤンセンの名のもとに、私たちはあらゆる患者さんのために全力で科学を追求します。

次世代を担う若手外科医へ 万国外科学会 (ISS/SIC) 入会のすすめ

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野 教授

若井俊文



万国外科学会 (ISS/SIC) は、1902年に Antoine Depage (Brussels, Belgium) とそのグループが率先して、ベルギーの外科医・フランス、ドイツ、スイスからのゲストと集会を行い設立された。最初の国際学会は、3年後の1905年に Brussels で開催され、President を務めたのはスイスの外科医 Theodor Kocher (Berne, Switzerland) であった。当時、Kocher 教授は精力的に各国を廻っており、その業績はヨーロッパ・海外で広く翻訳され、高名な外科医の一人であった。彼の名声は、1909年に外科医としては初めてノーベル賞を受賞したことでさらに高まった。万国外科学会 (ISS/SIC) は、既に100年以上の歴史を有し、現存する国際学会の中で最古の学会である。

私が初めて参加したのは、卒業8年目の1999年ウィーン (Vienna) で開催された第38回万国外科学会であった。学会に参加して胆嚢癌の port site recurrence を知り、研究に邁進する動機を植え付けられる機会を得た。いつか世界の高名な外科医と肩を並べて議論し、国際学会賞を受賞できるような研究テーマを自らの力で完遂したいと考えようになった。2001年に本学会は100周年を迎え、発祥の地 Brussels, Belgium で開催された。本学からも12演題が採択され、夏休み期間を利用して総勢14名が参加した。学会初日の Opening 直後、北島政樹教授の100周年記念講演 "Progress in GI cancer management: challenges in the 21st Century" を拝聴し、心から感動したことを今でも覚えている。この記念すべき100周年の学会で2年前に本学会で知った胆嚢癌の port site recurrence に関する研究成果を口演発表し、翌2002

年に学会機関誌である World Journal of Surgery 2002;26:867-71 に研究成果が掲載された時の喜びは今も忘れられない。

北島政樹教授が President を務め主催した ISW2007 (Montreal, Canada) では、大腸癌肝転移に関する研究が Prize を受賞し、壇上で北島教授から表彰され、ひとつの夢が実現した瞬間であった。ISW 2013 Helsinki では、本学から中野雅人先生、坂田純先生の2名が "Yokohama Award 2013 ヘルシンキ" を受賞した。Award 受賞により、上述2名の若手外科医は観光に行かず、自ら Writer's Workshop に申し込み、2日間徹夜で英語漬けの日々を送り、自らの意志で努力し成長する姿に逞しさを感じた。

万国外科学会 (ISS/SIC) が企画する試みに参加してみようと決めた外科医は、ISS/SIC に参加してすぐに、この活動が知的刺激に溢れ、人間的にもやりがいのある学術的国際イベントであることに気が付くであろう。次世代を担う若手外科医には万国外科学会 (ISS/SIC) に入会し、世界の外科学に触れる喜びを知ってもらいたい。そして、私は若手とともに医学研究を通じてエビデンスを創出し、日本から世界へ向けて研究成果を発信し続ける人材の育成に貢献していきたいと考えている。



ISW Helsinki に参加の新潟大学若手外科医6名

WCS2015 開催のお知らせ

次回の ISW は
World Congress of Surgery (WCS) と名称を改め、
2015年8月23日～27日にタイのバンコクで開催されます。



46th World Congress of Surgery

International Society of Surgery (ISS)
Société Internationale de Chirurgie (SIC)

International Surgical Week/ISW 2015

23-27 August 2015

Bangkok Convention Center, Centara Grand at Central World
Bangkok, Thailand

Jointly organised with
Royal College of Surgeons Of Thailand
and the ISS/SIC Integrated Sociétés

International Association of Endocrine Surgeons (IAES)
International Association for Trauma Surgery and Intensive Care (IATSIC)
International Association for Surgical Metabolism and Nutrition (IASMEN)

Breast Surgery International (BSI)
International Society for Digestive Surgery (ISDS)
Alliance for Surgery and Anesthesia Presence (ASAP)

www.wcs2015.org

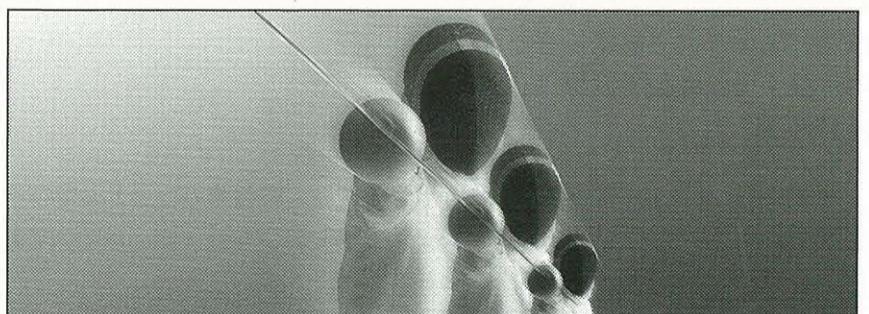


「効能・効果」、「効能・効果に関連する使用上の注意」、「用法・用量」、「用法・用量に関連する使用上の注意」、「禁忌を含む使用上の注意」等については、添付文書をご参照ください。

5-HT₃ 受容体拮抗型制吐剤 劇薬、処方せん医薬品 (注意—医師等の処方せにより使用すること) 薬価基準収載

アロキシ 静注 0.75mg **アロキシ** 点滴静注バッグ 0.75mg
Aloxi. i.v. injection 0.75mg Aloxi. i.v. infusion bag 0.75mg

パロノセトロン塩酸塩注射剤 製造販売元 大鵬薬品工業株式会社 提携先 HELSINN スイス
資料請求先 大鵬薬品工業株式会社 東京都千代田区神田 1-27-1 TEL: 0120-20-4527 FAX: 03-3293-2451 http://www.taiho.co.jp/ 2013年9月作成



カルバペネム系抗生物質製剤 処方せん医薬品 薬価基準収載
フィニバックス 点滴静注用 0.25g・0.5g
キット点滴静注用 0.25g

FINIBAX (注射用ドリベネム水和物 略号: DRPM)
注) 注意—医師等の処方せにより使用すること

「効能・効果」、「用法・用量」、「禁忌」、「原則禁忌」、「使用上の注意」等については添付文書等をご参照下さい。

製造販売元 [資料請求先]
シオノギ製薬
大阪市中央区道徳町3-1-8 〒541-0045
電話 0120-956-734 (医薬情報センター)
<http://www.shionogi.co.jp/med/>

FBX-KO-102A (C1) 審 V4005 ©:登録商標 2012年11月作成

Yokohama Award of ISS/SIC Japan Chapter ISW2013 Helsinki 受賞者紹介

Yokohama Award は ISW2011 Yokohama の余剰金を基金とし、若手外科医の ISW への参加を支援する目的で創設されました。ISW に優れた演題を提出した 40 歳以下の外科医に授与されます(応募には日本支部会員による推薦が必要)。第 1 回である Yokohama Award ISW2013 Helsinki は応募抄録の厳正な審査の結果、次の 5 名の先生が受賞しました。受賞者は ISS/SIC Foundation Travel Scholarship を始めとする他の Travel Award 受賞者とともに ISW Helsinki 2 日目 Early Morning Session での表彰式に出席し、北川日本支部長からの紹介、証書の授与を受けました。



新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野

坂田 純

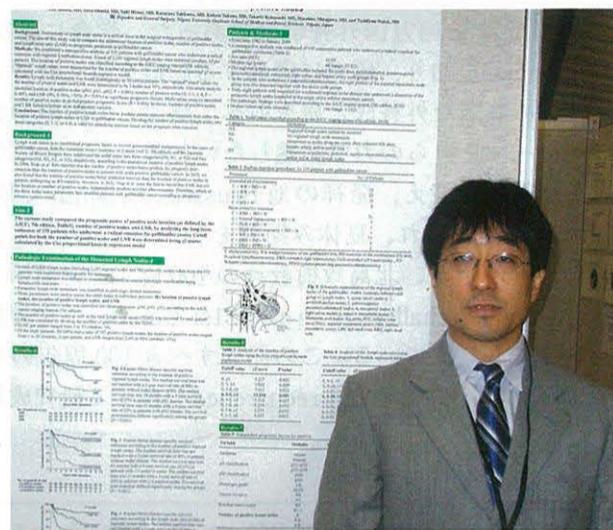
万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。今回、ヘルシンキで開催された ISW 2013 において、第 1 回目にあたる Yokohama Award of ISS/SIC Japan Chapter を受賞させて頂きまして、誠にありがとうございました。外科医として、大変光栄に存じます。

今回、受賞させて頂きました演題は「Assessment of lymph node status in gallbladder cancer: location, number, or ratio of positive nodes」という研究で、胆嚢癌におけるリンパ節転移の評価方法としてリンパ節転移個数が最も優れており、胆嚢癌に対するリンパ節郭清は、転移個数 3 個まで有効であるという結論を報告させて頂きました。この度、このような賞を受賞できたことは、ひとえに諸先輩方のご指導あつての賜物と心から感謝しております。

万国外科学会外科学分野で最も歴史のある国際会議で、モンリオールでの ISW 2007、横浜での ISW 2011 に続き、私自身、今回で 3 回目の参加と

なりました。参加する度に、今世界で何が起り、何を topic としてどのような議論がなされているのかを real time に体験できて非常に刺激的に感じ、自分自身の研究に対するモチベーションを植え付けられています。

今回の受賞を糧としてさらなる研鑽を積み、医学研究を通じて日本から世界に向けて研究成果を発信できるように努力してまいりますので、今後とも、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。



横浜市立大学医学部消化器・腫瘍外科

木村 準

私は平成 21 年 4 月から大学院に入り、「Conditionally Replicative Adenovirus (CRAd) を用いた化学療法効果判定のイメージング」をテーマに研究を行ってきました。同期の仲間が次々と研究結果を出していく中、自分は能力不足のため、思うように研究が進まない毎日でありました。平成 24 年に入り、何とか良い結果が出始め、一つの研究をまとめることができました。そんな時、当教室の遠藤教授から、ISW2013 ヘルシンキの Yokohama Award に応募してみないかと、お声をかけていただいた結果、今回、受賞することが出来ました。自分の研究が初めて報われ、この受賞は大きな励みとなりました。さらにヘルシンキでは日本人参加者の会での表彰、Early Morning Session での受賞者紹介などのイベントもあり、今まで経験したことがない種類の喜びを感じさせて頂くことができました。

自分の発表は初めての英語口演であり、英語が苦手な自分にとって厳しい質疑応答があり、自分の英語力のなさを痛感させられましたが、自分にとっては良い経験をさせてい

ただくことができ、ISW2013 ヘルシンキでの経験、他者の発表から得た知識を今後の臨床、研究に活かしていきたいと考えております。このような貴重な機会を与えてくださり、感謝の念に絶えません。本当にありがとうございました。



新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器・一般外科学分野

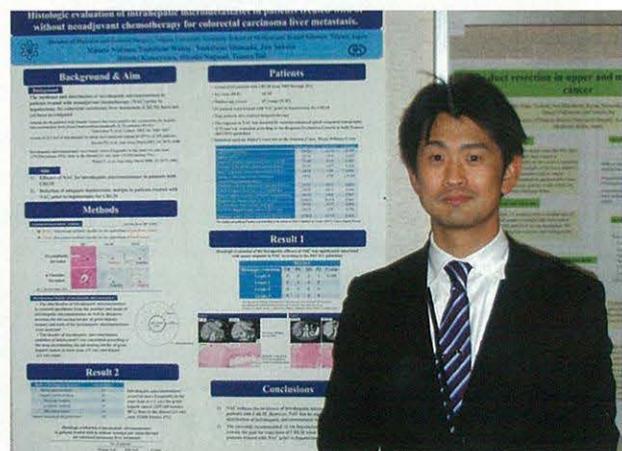
中野雅人

万国外科学会会員の諸先生方におかれましては、ご健勝のこととお慶び申し上げます。このたび、Yokohama Award of ISS/SIC Japan Chapter の記念すべき第一回の受賞を賜り、大変光栄と感じております。

今回受賞対象となった演題は「Histologic evaluation of intrahepatic micrometastases in patients treated with or without neoadjuvant chemotherapy for colorectal carcinoma liver metastasis」です。大腸癌肝転移に対する術前化学療法の施行により肝内微小転移巣の頻度は減少するが、分布(距離・密度)には影響を与えないことを報告させていただきました。このような栄誉ある賞を受賞できたのは、ひとえに諸先輩方のご指導の賜物です。この場を借りてお礼申し上げます。

私自身、国際学会への参加は今回が初めてでしたが、世界の有名な外科医が互いに議論を交わしている姿を肌で感じる事ができ、またその場に多くの日本人外科医が参加している様子を目の当たりにし、自らの臨床・研究への熱意をさらに高めることができました。

今回の経験を糧により高い意識を持って日々の臨床・研究に邁進していく所存です。今後とも、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



横浜市立大学 大学院医学研究科
 消化器・腫瘍外科学
大田洋平

はじめに、記念すべき第1回の Yokohama Award をはからずも受賞させていただき当初は大変驚きました。私の研究テーマはラット過大肝切除後肝不全に対する Thrombomodulin の有用性についての研究でした。過大肝切除モデルを用いた術後肝不全の研究は1995年以来教室で諸先輩方が連綿と受け継いできた研究であり、そうした経緯からも今回の受賞は大変うれしく思います。

個人的には海外の主要学会にこのような形での参加は初めてで、滞在中には多くの貴重な経験をする事ができました。中でも広大な学会場での授賞式は一生の思い出に残る強いインパクトがあり、いつかはその場で演題発表してみたいと思いました。また、いくつかのセッションを聞く中でディスカッションの活発さに驚き英語力の向上が必須であることを痛感しました。さらに北欧への渡航が初めてで、北欧調の街並みや貴重な文化遺産に触れることもできました。日本では経験できないこれらの経験は今後海外の学会へ参加を目指すこ

の上ないモチベーションとなりました。

今回受賞した研究については現段階で一定の結論を見ましたが今後さらなる研究・解析が必要な発展途上の研究だと考えております。今回の受賞を新たな出発点としてまた初心に戻り気持ちを新たに研究に精進していくつもりです。

最後にこのような素晴らしい経験をさせていただきましたことを Yokohama Award の創設にご尽力いただきました皆様に深く御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



慶應義塾大学 一般・消化器外科
田中真之

この度は、2013年8月25日～29日にヘルシンキで開催された万国外科学会 (International Surgical Week) において、日本の若手外科医の発展のために贈られる「Yokohama Award」を頂き、大変光栄であり、御礼申し上げます。私は北川雄光教授(慶應義塾大学 一般・消化器外科)、田邊稔教授(東京医科歯科大学 肝胆脾・総合外科)指導の下、2011年より「HMGB1 制御による急性肝不全の新治療法の開発」をテーマとした研究に従事し、核内タンパク HMGB1 のアンタゴニストである Abox タンパクの遺伝子を肝に導入することで効果的に急性肝不全を治療することができることをラットモデルで示しました。難病である劇症肝炎の新治療法開発、さらには移植医療がかかえるドナー不足の問題解決の一助となればと期待しております。

また、学会は日本人参加者も多く盛会であり、他国の外科医の考えに触れることができ、世界に目を向ける価値のある経験をする事ができました。この

ような経験をもとに日常診療や研究に従事し、2年後の学会でも成果を発表させていただきければと存じます。



NOVARTIS
ONCOLOGY

協創の時代へ
 がん治療の未来を
 共に創る。

<p>アフィニール 錠25mg / 錠5mg 抗がん剤補助薬(HER2阻害剤) 特許: 武蔵野薬品 製造販売元 代理: 武蔵野薬品 製造販売元</p>	<p>グリパック 錠100mg 抗がん剤補助薬(チロシンキナーゼ阻害剤) 特許: 武蔵野薬品 製造販売元 代理: 武蔵野薬品 製造販売元</p>	<p>サンドスタチンLAR 筋注用剤 抗がん剤補助薬(チロシンキナーゼ阻害剤) 特許: 武蔵野薬品 製造販売元 代理: 武蔵野薬品 製造販売元</p>
<p>イクジエイト 錠150mg / 錠500mg 抗がん剤補助薬(チロシンキナーゼ阻害剤) 特許: 武蔵野薬品 製造販売元 代理: 武蔵野薬品 製造販売元</p>	<p>タシクサ カプセル200mg 抗がん剤補助薬(チロシンキナーゼ阻害剤) 特許: 武蔵野薬品 製造販売元 代理: 武蔵野薬品 製造販売元</p>	<p>サンドスタチン皮下注用剤 抗がん剤補助薬(チロシンキナーゼ阻害剤) 特許: 武蔵野薬品 製造販売元 代理: 武蔵野薬品 製造販売元</p>
<p>ゾメタ 点滴静注 4mg/100mL 抗がん剤補助薬(チロシンキナーゼ阻害剤) 特許: 武蔵野薬品 製造販売元 代理: 武蔵野薬品 製造販売元</p>	<p>フェマラ 錠25mg 抗がん剤補助薬(チロシンキナーゼ阻害剤) 特許: 武蔵野薬品 製造販売元 代理: 武蔵野薬品 製造販売元</p>	

ここにあげたすべての処方せん医薬品は、「注意—医師等の処方せんにより使用すること」。
 効能・効果、用法・用量、警告、禁忌、使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。

製造販売 **ノバルティス ファーマ株式会社**
 東京都港区西麻布4-17-30 〒106-8618

〈資料請求先〉 **NOVARTIS DIRECT**
 0120-003-293
 発行時間: 月～金 9:00～17:30
 (祝日及び当社休日を除く)
 www.novartis.co.jp

2013年5月作成

© Toei Productions

胃炎・胃潰瘍治療剤
セルベックス 錠50mg / 10%
 (デブレンン製剤)

抗がん剤補助薬(チロシンキナーゼ阻害剤)
パリエット 錠10mg / 錠20mg
 (デブレンン製剤)

製造販売元 **エーザイ株式会社**
 〒112-8688 東京都文京区小針4-6-10
 http://www.eisai.co.jp

商品情報お問い合わせ先: エーザイ株式会社 お客様ホットライン
 ☎0120-419-437 9～18時(土、日、祝日9～17時)

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意については、添付文書をご参照ください

PRT0904-1C 2009年4月作成

第35回万国外科学会(ISS/SIC)日本支部総会 議事録

2013年4月13日土曜日 午前7:00～8:00

於： サンパレス福岡 2階「末広」

出席者：池田 正、岩中 督、海野倫明、遠藤 格、岡 正朗、小澤壯治、掛地吉弘、片井 均、片田夏也、北川雄光、北川博昭、北島政樹、熊谷一秀、後藤満一、島田英昭、白水和雄、高見 博、田尻 孝、田中淳一、丹黒 章、富澤康子、富田尚裕、中村清吾、中村隆俊、橋爪 誠、馬場秀夫、原口義座、東口高志、比企直樹、藤田 尚、藤村 隆、藤元治朗、前田耕太郎、前田茂人、松原久裕、真船健一、水本龍二、溝端康光、宮澤光男、村尾佳則、守瀬善一、矢永勝彦、山本雄造、吉田和弘、若井俊文、若林 剛、和田則仁、渡邊昌彦、渡邊聡明 (敬称略、五十音順、計49名) (事務局：奥田京子)

1. 開会の挨拶：北川雄光日本支部長

2. 前回議事録の確認

3. 事務局からの報告 会員動向・支部活動

北川日本支部長：36号ニュースレターにあるとおり、行岡哲男先生がIATSICのコースを日本で開催され、特にこのSocietyから多数の入会があり、日本の会員数が伸びている。理事会でも高い評価を受けている。会員の増加には各Integrated Societyにおいて万国外科の活動を活発にしようという動きが必要と思われる。

4. 決算・予算案

原案(ニュースレター36号に掲載)通り承認された。

5. ISS/SIC 理事会報告・ISWについて

北川日本支部長 (ISS/SIC 理事)：3月15、16日にチューリッヒで開催された。主な議題は8月のISW2013ヘルシンキ。各Integrated Societyのプログラムが審議され、司会者等全てのセッションが決定される。日本からの参加は提出演題数が225と非常に活発である。日本は遠隔地でありむしろ参加が少ないだろうとのISW本部の見込みから、プログラムの日本人司会者が少なかったため、日本支部が交渉し、さらに日本の先生に司会をお願いすることになった。

また様々なPrizeの審議があり、日本からは日本支部が推薦した北島政樹先生が名誉会員に決定した。

ISW2015は2015年8月23日～27日にタイのバンコクで開催される。バンコクでも日本の先生にぜひ多く発表していただきたい。また日本の先生方が活躍できるようなセッション構成にしたいと考えている。ISWはそれぞれのIntegrated Societyがプログラムを決める仕組みとなっており、Society内の決定が重要であるため、特に主要セッションについてはSocietyごとにコ

ンタクトをとっていただきたい。

ISW2017は綿密な客観評価の結果、アルゼンチンのブエノスアイレスに決定。ブラジルのリオデジャネイロも候補にあがっていたが、会場立地の不便さが懸念要因となった。

6. Yokohama Award について

和田事務局長：7施設から14演題の応募があり、厳正な審査により5名の受賞者が決まった。今回は新潟大学、横浜市立大学から多数応募いただいた。

7. 各 Integrated Society について

IAES 高見 博先生：昨年7月、11年にニューヨークで会合がありISW Helsinkiのスケジュールは全て決まった。Free paperの32題中、日本からは5題と順調に進んでいる。

IATSIC 溝端康光先生：DSTC[®] (Definitive Surgical Trauma Care) コースを初めて日本で帝京大学にて開催した。日本外傷学会には2000名程会員がいるが、IATSICの会員がなかなか増えない状況がありIATSIC Japanを設立し、IATSIC加入を促すよう積極的に広報活動を行っているところである。

BSI 中村清吾先生：ISW Helsinkiでは教育セッションとしてUltrasound Courseと、人工乳房を使った乳房再建等をどう行うかというBreast Oncoplastic Workshopを行う予定である。また、BSIとしてアジア、発展途上国等でこうした教育ワークショップをパッケージで行っていくことを検討中である。

ISDS 渡邊昌彦先生：ISS/SICの学会の中では最大の組織であり、日本から多くの先生にでていただくよう、さらに司会をお願いしている。

北川日本支部長：今回の理事会で外科医、麻酔科医、看護師の学会であるAlliance for Surgery and Anesthesia Presence (ASAP) がParticipating Societyから昇格しIntegrated Societyとなることが審議された。これまでISS/SICの会員は外科医に限定されていたが、麻酔科医、看護師が加わることとなりActive memberとして認めるかどうか審議中。

8. 機関誌 (WJS) について

片井 均先生：IFは2007年の1.8から2010年の2.7と上昇傾向にあったが、2011年は2.3と若干低下した。採択率は3割程度だが、よりよい論文を採用するためにはもう少し下げること検討している。日本からの投稿の採択率はだいたい4分の1。

9. 次回日程について

北川日本支部長 恒例により、日本臨床外科学会総会の最終日(2013年11月23日)の早朝の予定である。開始時間は多少繰り下げ7時15分としたい。

以上(文責 和田則仁)

CHUGAI 中外製薬
Roche ロシュ グループ
at the Front Line
CHUGAI ONCOLOGY

抗悪性腫瘍剤
劇薬、処方せん医薬品(注)
ゼロータ[®]錠300
Xeloda[®]
カベシタシン錠
注)注意—医師等の処方せんにより使用すること

抗悪性腫瘍剤 抗VEGF^{注1)}ヒト化モノクローナル抗体
生物由来製品、劇薬、処方せん医薬品(注2)
アバスタ[®]点滴静注用
AVASTIN[®]
ベシズマブ(遺伝子組換え)注
注1) VEGF: Vascular Endothelial Growth Factor (血管内皮増殖因子)
注2) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

※効能・効果、用法・用量、警告、禁忌、原則禁忌を含む使用上の注意、効能・効果に関連する使用上の注意、用法・用量に関連する使用上の注意等は製品添付文書をご参照ください。

[資料請求先]
中外製薬株式会社
〒103-8324 東京都中央区日本橋室町2-1-1
ホームページで中外製薬の企業・製品情報をご覧ください。
<http://www.chugai-pharm.co.jp>

2013年3月作成

選択的NK1受容体拮抗型制吐剤 薬価基準収載
イメンド[®]カプセル125mg
カプセル80mg
カプセルセット
アプレピタントカプセル
注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること
処方せん医薬品[®]
EMEND[®]
® Registered Trademark of Merck Sharp & Dohme Corp., a subsidiary of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A.

選択的NK1受容体拮抗型制吐剤 薬価基準収載
プロイメンド[®]点滴静注用150mg
注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること
処方せん医薬品[®]
PROEMEND[®]
® Registered Trademark of Merck Sharp & Dohme Corp., a subsidiary of Merck & Co., Inc., Whitehouse Station, N.J., U.S.A.

●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、詳細は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先
小野薬品工業株式会社
〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

130101

プロトンポンプ・インヒビター エソメプラゾールマグネシウム水和物カプセル
ネキシウム[®]カプセル
10mg
20mg
薬価基準収載 処方せん医薬品(注)
注) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

効能・効果、用法・用量、効能・効果に関連する使用上の注意、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

販売元(資料請求先) 第一三共株式会社
Daiichi Sankyo 東京都中央区日本橋本町3-5-1

製造販売元(資料請求先) アストラゼナカ株式会社
大阪府北区大淀中1丁目1番88号
0120-189-115
問い合わせ先(資料請求先) アストラゼナカ株式会社

2013年4月作成